

# 耕平さんかわら版

発行編集部

大塚耕平事務所

☎052-757-1955

Kouhei@oh-kouhei.org



皆さん、こんにちは。いよいよ春本番。でも、朝晩は冷え込む日もあります。くれぐれもご自愛ください。

日常生活の中に浸透している仏教用語をお伝えしているかわら版。仏教用語がたくさん定着しているのには驚きます。

四月と言えば入学、新学期のシーズン。小学校の新一年生は元気に挨拶できているでしょうか。一年生以外も、新しいクラス、新しい友達、新しい先生に少々緊張する季節。会社でも同じです。新しい部署、新しい同僚や上司、お互いに挨拶し合うことが、親しくなる大切なきっかけですね。

この「挨拶」も実は仏教用語。ちよつとビックリです。

「挨拶」とは、もともと禅寺で行われていた問答に由来します。「禅問答(公案)」はよく知られています。それよりも少し軽い感じの問答です。

「挨拶」の「挨(あい)」は「軽く触れる」「軽く押す」という意味。「挨拶」の「拶(さつ)」は「迫る」「切り込む」という意味。禅寺で師と弟子がすれ違いざまに、「中庭はきれいか」と問

いかけると、弟子は何を問われているのかを察します。例えば、「中庭」を「心の中」と置き換えて、「静かに掃き清めています」などと返す。これが「挨拶」だそうです。

「禅問答」は、対坐して「汝に問う」と言って師が質問し、弟子が切り返して答える。これを日常からさりげなく行うのが「挨拶」です。

本来の「挨拶」から生活の一部となった「挨拶」。しかし、日常生活における「挨拶」も本来の「挨拶」の意味から省みると、共通する点があります。

「おはようございます」と声をかけられて、気持ちよく「はい、おはようございます」「今日も元気に頑張りますよ」とにこやかに切り返すのと、仏頂面でモゴモゴと小声で返したり、黙って無視するのでは、お互いの印象がずいぶん違います。

「挨拶」は瞬時に相手と心を通わせる瞬間芸のようなもの。禅寺の瞬間修行としての「挨拶」。日常生活でも人間関係や自分の気持ちに大きく影響する瞬間社交。何気なく「挨拶」するのはなく、「挨拶」の重要性を皆

で共有できると良いですね。

「挨(あい)」された時には、相手の気持ちを推し量り、自分の気持ちを高め、人間関係を良くするためにも、気持ちよく、明るく「拶(さつ)」を返す。「挨拶」の意味と習慣が徹底される中、社会や学校、会社、家庭の中も、ずいぶん雰囲気が変わります。

元々の「挨拶」は目上の者から声をかけるもの。会社や学校で部下や後輩に対して「あいつは挨拶がない」と不機嫌な態度を示す上司や先輩。本来の意味からすれば逆です。自分が強い立場だから「挨拶」を待つのではなく、むしろ部下や後輩を慮り、目上の者から「今日も元気か」「おはよう」「何か心配ごとでもあるか」と気さくに声をかけることが「挨拶」の本来の姿。「挨拶」された方は、しっかりとお返ししなくてはなりません。「挨拶」ひとつで人間関係や社会はずいぶん変わります。日常生活の中に浸透している仏教用語。まだまだ知らないことばかり。奥が深いですね。

※



かわら版執筆者大塚耕平  
汪山「耕庵」 <https://ko-an.blog/>

知県名古屋市生まれ。日泰寺の地元、田代小学校、中学校を卒業。2002年から地元の歴史・文化と振興のために、日泰寺の縁日(毎月21日)に

「弘法さんかわら版」をお配りしています。2013年から知立遍照院の縁日でも「弘法さんかわら版」がスタート。

全国先達会、愛知県先達会、東日本先達会などで仏教関係の講演を行っているほか、毎年年末には日泰寺西隣の専修院で「弘法さんを語る会」を開催。中日文化センター「くらしの中の仏教」講座の講師も務めています。

著書に「弘法大師の生涯と覚王山」、「仏教通史」、「四国霊場と般若心経」(大法輪閣)など。

愛知県立旭丘高校、早稲田大学・大学院を経て、日本銀行に18年間勤務した後、2001年から参議院議員。元内閣府副大臣・厚生労働副大臣。

現在、早稲田大学と藤田保健衛生大学医学部の客員教授を兼務。元中央大学大学院客員教授(2005~17年)。早稲田大学博士。

大塚耕平事務所 ☎0527571955 担当:あさい  
名古屋市千種区覚王山通9-19 覚王山プラザ2F

